

直動機器・位置決め装置 増産

ヒートハイスト、設備投資 4年ぶり高水準



秋田工場に 最新工作機械 自動化ニーズ急増

【川越】ヒートハイストは2022年3月期の設備投資額を前期比約91%増の2億2900万円に積み増す。製造業での自動化ニーズの高まりで、同社の主力製品である直動機器や位置決め装置などの需要が急増しているため。投資額は同じく需要が堅調だった18年3月期以来4年ぶりの高水準で、特に増産に寄与する工作機械への投資額は1億8900万円と4年前を4割近く上回る。

ヒートハイストはTHKに直動ベアリングをOEM（相手先ブランド）供給しているほか、自社ブランドで半導体液晶製造装置などに使う精密位置決めスライダなどを製造。20年末にコロナ禍による低迷を脱し、現在は「工場でも人と人の接触を減らすため、ロボットや自動機の導入意欲が加速し、注文に追いつかない状況。デジタル工場への投資額は4年前を4割近く上回る（埼玉県川越市の本社工場）」

「丸化で半導体関連も伸びている」（尾崎浩太社長）と言ったまで急回復している。

直動機器ではTHK向け新製品の量産開始などもあり、秋田工場（秋田市）を中心に数値制御（NC）旋盤や研磨機、内面研削盤などの工作機械を順次導入。最新鋭機に更新することで生産性も高めている。「工作機械だけで投資額が1億円を超えるのは珍しい」（同）と述べるように、1億円超えは業界全体で直動案内機器の入手難が課題になった18年3月期以来、工作機械以外にも測定機や検査装置、製造現場の改善を促す自動化設備などを積極的に取り入れている。